



松江保健生協 2020 年度のまとめ

(はじめに)

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、医療、介護事業では患者、利用者が大幅に減少し、組合員活動では理事会専門委員会、支部、班の企画が中止や自粛を余儀なくされました。その後、感染拡大防止策を取りながら、事業活動の通常運用とコロナによるフレイル対策を意識した健康づくり、つながりづくりの取り組みをすすめてきました。

健康チャレンジや生協強化月間では昨年を上回る成果を出すことができました。

コロナ禍での孤立や健康に対する不安が増大する中で、あらためて保健生協の事業と組合員活動の果たす役割を考える年度となりました。

平和の取り組みでは批准国が50カ国に到達し、1月22日に「核兵器禁止条約」が発効されました。

1. ”る・る・ぶ” ~でかける つながる 安心を結ぶ~

健康づくり、要求に基づいたつながりづくりで、安心のネットワークを広げました。

新型コロナウイルス感染防止のため、組合員活動交流集会、支部での保健大学、城山ウォーキング、オーラルフレイル・チェックサポーター養成講座は延期となりました。

保健生協独自の「すこしおレシピコンテスト」を開催し、19人21レシピの応募があり6件が入賞しました。医療福祉生協連の全国コンテストにも応募し2年ぶりに入選を果たしました。昨年に続き「すこしおレシピ」集を発行しました。

5年ぶりに取り組まれた「24時間蓄尿塩分調査」には38名が参加しました。

コロナ禍でも開催方法を工夫し、グラウンドゴルフは9支部・ブロックで分散して開催し昨年規模を超える371人参加がありました。また、「寄せ植え」「地元史跡巡り」「お届け訪問」「お出かけ交流会」など生協強化月間企画では1,400人以上が参加しました。この取り組みであらたなつながりが広がり新規加入にもつながりました。

健康チャレンジは過去最高の9,924人、仲間でチャレンジも722グループ、2,786人が参加し、6休眠班の復活と新班14班の誕生につながりました。

2. 地域での助け合い、支え合いを通じ、くらしの安心、健康な”まちづくり”に貢献する松江保健生協の運動を広げました。

居場所（サロン・たまり場）づくりは、古志原支部で新しく「はっぴいサロン」が誕生し13支部13ヶ所となりました。コロナ禍により多くの支部では開催が自粛されましたが、感染対策と内容を工夫して開催し、人とのつながりを実感できる場の提供とともに、支部のやりがいにつながりました。お花の「お届け訪問」などの活動も新たに取られました。

フードバンクしまね「あったか元気便」は、対象学校が6校に拡大し、春休み1回、緊急食品応援2回（新型コロナ対応）、夏休み2回、冬休み1回、延べ760世帯（ご家族延べ2,600人以上）に8トン超（昨年5トン）の食料品をお届けしました。また、インターネットを通じて全国から支援が寄せられています。

「おたがいさま支えあい基金」は県外個人の方からの募金も含めて80万円のご協力を頂き、累計額では514万円となりました。「無料低額診療事業」への支援は69万円、「その人らしくを支える支援」には49件、11万円が支援されました。

3、「あったかまちづくりビジョン」（2014～2020）の取り組みをすすめました。

生協病院では検討プロジェクトが立ち上げられ第3次医療構想が策定されました。

コロナ禍により医療、介護事業は患者、利用者は今までにない大幅な減少となりました。生協病院の「断らない」、「患者ファースト」を合い言葉に救急搬送や入院受け入れの増加、介護医療院虹の在宅復帰支援や看取りの充実による収益確保と大幅な費用削減により、生協全体では2億1,020万円の黒字決算となりました。

「医療活動交流集会」「事務活動交流集会」は開催は中止となりましたが、職場活動報告書の作成・配布を行い、「その人らしくを支える」取り組みの交流と「生協理念」、「いのちの章典」を実践する人づくりをすすめました。

4、生協の役割、社会的価値の発揮を目指した取り組みをすすめました。

“誰一人取り残さない社会の実現を目指す”SDGs（持続可能な開発目標）の集合学習は開催できませんでした。

平和・憲法を守り、社会保障の充実を目指す取り組みは、「ヒバクシャ国際署名」1,687筆、「国保料の引き下げを求める署名」1,998筆、「医療費窓口負担2割化に反対する署名」380筆、「75歳以上の医療費窓口負担2割化が高齢者の受診行動に与える影響に関するアンケート」に取り組み、また「福島原発事故被災地視察報告会」の開催、第32回「戦争体験を語り継ぐ集い」は80人の参加者で開催されました。